

視聴覚機器を活用し、グループや学級全体で友人の作品を鑑賞することを通して、コミュニケーション能力を高める授業づくり

1 題材名 糸のこのドライブ

2 目標

- (1) 板の曲線切りを楽しむとともに、切った形を生かす活動に意欲的に取り組もうとする。  
(造形への関心・意欲・態度)
- (2) 曲線切りによって生まれた形からつくりたいものを思い付き、自分らしい発想を広げる。  
(発想や構想の能力)
- (3) 形や色の組合せ、丈夫な接着など、表したい意図に合わせて技能を働かせてつくる。  
(創造的な技能)
- (4) 友人と自分の作品の特徴について感じたことや思ったことを話し合い、よさや面白さを感じ取る。  
(鑑賞の能力)

3 指導に当たって

本題材は、初めて出会う電動糸のこぎりの扱いに慣れ親しみ、板を自由な曲線に切る楽しさを味わい、そこから生まれた形の面白さから発想を広げ、自分らしい造形的な表現の追求と発見をすることをねらいとしている。

本学級の児童は、第3学年の「くぎうちトントン」ではのこぎりを使用し、木切れや枝などの身近な素材をつないだり重ねたりしながら想像を膨らませて、思いに合った形をつくりだした。

授業をするに当たって、下記のような事前調査を行った。

|                                       |     | 平成23年度6月1日 第5学年1組 34人  |
|---------------------------------------|-----|--|
| ・ものをつくる活動は好きですか。                      |     | すき 32人 きらい 0人 どちらでもない 2人   |
| ・友人の作品を見たり、自分でつくったものを紹介したりすることは好きですか。 |     |  |
| すき                                    | 20人 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と友人の作品を比べることができるから。</li> <li>・いろいろな作品を見ることができるし、いろいろなことを伝えることができるから。</li> <li>・自分でつくった作品のよいところを知ってもらいたいから。</li> <li>・みんなの作品を見ると自分の作品の参考になるから。</li> </ul> |
| きらい                                   | 3人  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明するのがむずかしいから。</li> </ul>  |
| どちらでもない                               | 10人 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・見ることは楽しいけれど、説明することが得意ではない。</li> </ul>  |

この調査によると、ほとんどの児童がものをつくる活動に関心や意欲が高いという一方で、鑑賞活動に約40%の児童があまり関心や意欲が高くはないということが分かる。鑑賞活動をあまり好きではない理由として、見ることは好きであるが、説明することに苦手意識をもっている児童が大半であった。

そこで本題材の鑑賞では、デジタルカメラを活用し、自分のベストアングルで撮影した画像で鑑賞会を開く活動を通して、自己との対話を重ねながら、自分の思いを表現できた喜びを実感させたい。また、友人とともに「新しいベストアングル」を見付けだす活動を通して、感じたことを自分で確かめたり、友人と話し合ったりするなどしてその見方や考え方を深めるとともに、コミュニケーション能力を高めていきたい。

4 指導と評価の計画（6時間扱い） 本時は○印

| 時 | 主 な 学 習 活 動                                  | 評価の観点 |   |   |   |
|---|--|-------|---|---|---|
|   |  | 関     | 発 | 技 | 鑑 |
| 1 | 電動糸のこぎりの安全な扱い方を知り、板の曲線切りから思い付いたものをつくる意欲をもつ。  | ◎     |   |   |   |
| 2 | 学習支援ボランティアの支援を生かして電動糸のこぎりを正しく使い、自由な曲線        |       | ◎ |   |   |
| 3 | 切りで一枚の板を切る。                                  |       |   | ◎ |   |
| 4 | 曲線切りでできた形を組み合わせて、どのようなものをつくるか試しながら構想を練る。     |       | ◎ |   |   |
| 5 | 自分のイメージに合うように、形や材料の組合せ方を工夫してつくる。             |       |   | ◎ |   |
| ⑥ | 友人と自分の作品の特徴について感じたことや思ったことを話し合い、よさや面白さを感じ取る。 |       |   |   | ◎ |

5 本時の学習

- (1) 目標 友人と自分の作品の特徴について感じたことや思ったことを話し合い、よさや面白さを感じ取ることができる。
- (2) 準備・資料  
 (教師) デジタルカメラ、パソコン、プロジェクター、学習のポイント(拡大)、児童が撮った自分のアングル写真と組み立てる前の写真、鑑賞カード、ワークシート  
 (児童) 自分でつくった作品、筆記用具
- (3) 道徳教育との関連  
 謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。〔2-(4)〕
- (4) 展開

| 学習活動・内容  | 指導・支援と評価   |  |
|--|--|--|
|  | T 1  | T 2  |
| 1 本時の学習活動を確認する。  | ・本時のねらいを明確に示す。   |  |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     いろいろな考え方やよさを見つけよう<br/>                     ～これが私の『ベストアングル』～                 </div> |  |  |
| 2 今までの学習を振り返りながら、なぜその角度から撮ったのか、理由をワークシートに記入する。<br>・「ここは見てほしい」という部分を最低一つは書く。<br>・面白いところを見付ける。   | ・作品を組み立てる前の写真を参考にしながら今までの思いを振り返らせ、平面から立体へ変化したときの気持ちの変化や写真のアングルを発見したときの気持ちなどを中心に理由を考えてみることを伝える。<br>・「見る・考える・話す・聞く」の鑑賞の方法と、「形・色・光」などの鑑賞の視点を確認する。<br>・それぞれの作品に対して、聞いている人全員が意見を出し合うように伝える。 | ・自分の思いをうまく表現できない児童には、個別に対話をし、児童の気持ちを確認しながらアドバイスをする。<br>・友人の発表を集中して聞けない児童に寄り添い、声かけをする。                          |
| 3 鑑賞の方法と鑑賞の視点を確認して、グループごとに友人の作品を鑑賞する。<br>(鑑賞の方法)<br>1 しっかり見る<br>2 よく考える<br>3 手を挙げて、声のダイヤルを意識して話す<br>4 他の人の意見をしっかり聞く  | (評) 友人と自分の作品の特徴について感じたことや思ったことを話し合い、よさや面白さを感じ取っている。<br>(鑑賞の能力：観察、ワークシート)   |  |
| (鑑賞の視点)<br>○ 形<br>○ 色<br>○ 光<br>○ 奥行き<br>○ 風景を含めた全体的なイメージ 等  | ・友人と自分の作品の特徴について感じたことや思ったことを積極的に話し合い、よさや面白さを互いに感じ取っていたときは、それを称賛する。   |  |
| 4 クラス全体に発表する。  | ・約束の確認をする。<br>・友人の発表を聞いて、学んだことや感じたことを自分たちのベストアングルに取り入れさせる。   | ・プロジェクターに写真を映し出す。  |
| 5 グループで新たな『ベストアングル』を見付けだし、なぜその角度から撮ったのか、理由をワークシートに記入する。<br>・自分の思いを語る<br>・友人と共に考える<br>・感じたことを伝え合う<br>・友人の意見を受け入れる   | ・友人とともに考えたり、友人の意見も受け入れたりしながら新たな『ベストアングル』を見付けられたときには、それを称賛する。<br>・2～4グループに絞って発表させる。<br>・本時の活動における児童の取組を十分に称賛する。   | ・自分の意見を押し通したり、意見を言うことがなかなかできない児童に寄り添い、声かけをする。<br>・説明することに苦手意識をもっていた児童で、特に頑張っていた児童を指名し、感想を発表させる。そして、活動の様子を称賛する。 |
| 6 ワークシートに自己評価をし、次時の学習の見通しをもつ。  | ・次時はローラーを使っていろいろな使い方を試すことを知らせる。  |  |